

# 大崎麦作情報 総括号

## ～令和6年産麦類の特徴・次期作に向けて～

- シラネコムギは生育前半の茎数増加が著しく、後半の生育進展も早くなりました。
- 細麦が多く千粒重・容積重が小さくなり、収量は平年を大きく下回りました。
- 次期作に向けて、排水対策の徹底を図りましょう。

### 1 気象経過

#### (1) 越冬前 (10月～12月)

10月下旬の播種時期は、少雨・多照で推移しました。定期的な変動はあったものの、平年より高温の傾向が続きました。

#### (2) 冬期間 (1月～2月)

期間中は気温が平年より高い傾向が続き、1月下旬と2月下旬に降雪はあったものの根雪期間は短くなりました。

#### (3) 越冬後 (3月～6月)

3月中旬以降は高温多照で推移し、特に4月中下旬から5月上旬まで気温が高い日が続きました。4月中旬と6月上中旬は少雨・多照となりました。

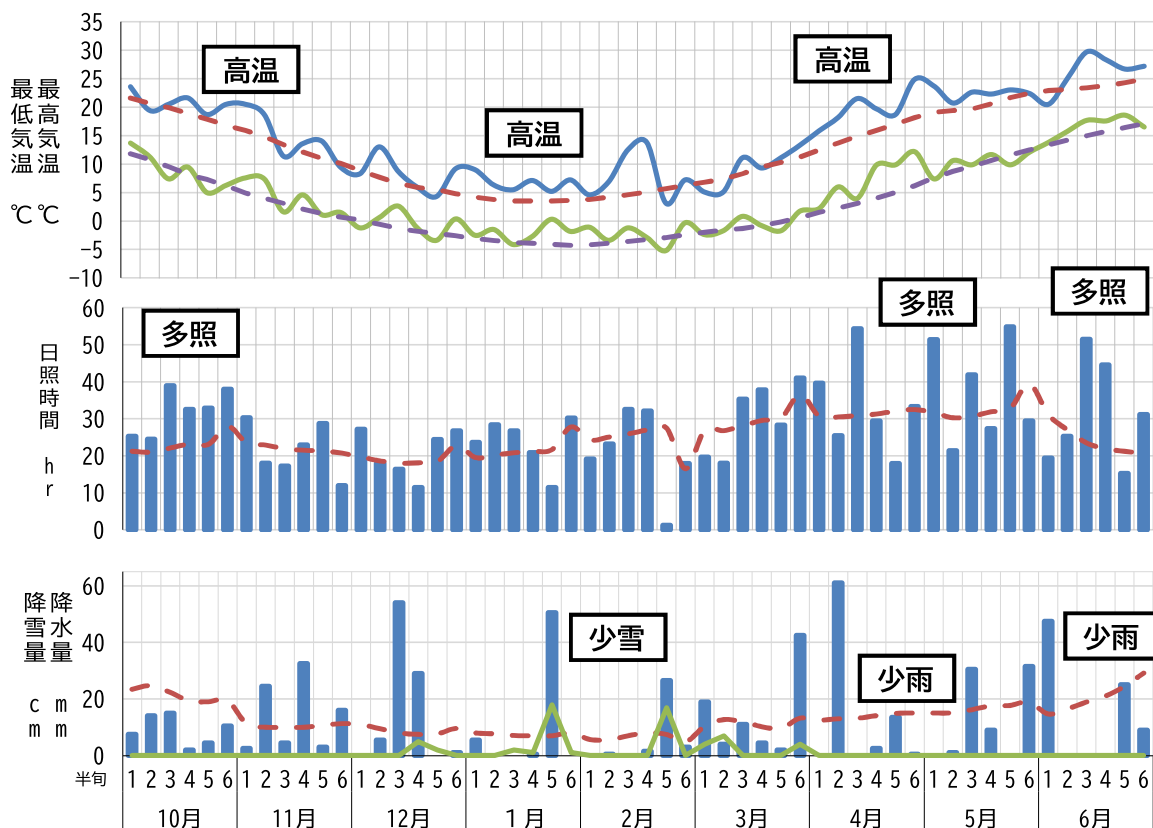


図1 気象経過 (古川アメダス)

※1 実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

## 2 生育概況

### ● 小麦「シラネコムギ」

#### (1) 越冬前～冬期間（10月～2月）

- ・播種日は平年より4日早い10月20日で、出芽はムラが少なく、良好でした。
- ・播種後の高温傾向により初期の生育が旺盛で、草丈・茎数とも平年を上回る推移でした。特に茎数の増加は著しく、2月10日時点では平年比289%でした。

#### (2) 越冬後（3月～6月）

- ・暖冬で根雪期間も短かったため、茎数は3月10日時点で平年比209%まで増加したものの、その多くは穂のつかない無効分げつとなりました。
- ・生育ステージは、平年と比較し、出穂期・成熟期とも9日早くなり、過去10年で最も早かった前年よりもさらに1～2日早まりました。
- ・成熟期の稈長は平年並、穂長がやや短く、穂数はやや多くなりました。
- ・収量は、2.0mm篩下のくず麦・細麦が多く発生し、千粒重・容積重は共に平年・前年より小さくなり、子実重は平年を大きく下回りました。生育量と生育ステージに応じた施肥管理が難しかったことが低収の要因と考えられます。

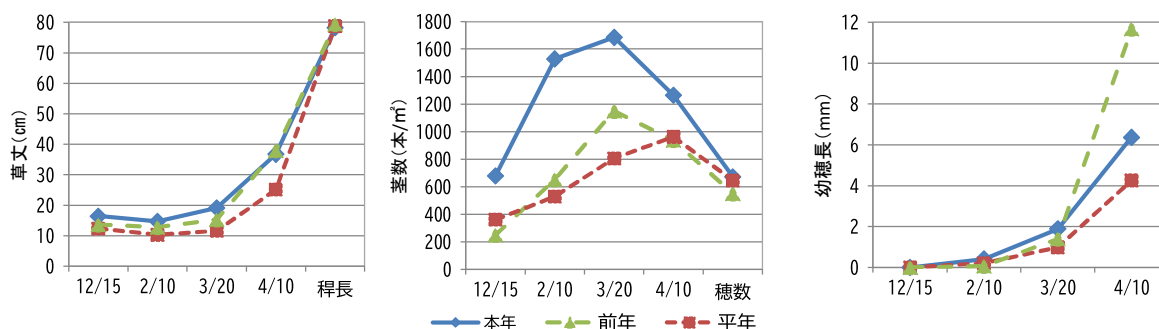


図2 草丈（左）茎数（中）幼穂長（右）の推移

表1 生育ステージ

地区名 品種名	区分	播種日	減数分裂期	出穂期	成熟期
古川 シラネコムギ	本年	10/20	4/21	4/29	6/14
	前年差	3日早い	同日	1日早い	2日早い
	平年差	4日早い	9日早い	9日早い	9日早い

表2 成熟期・収量調査結果

地区名 品種名	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m²)	千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m²)
古川 シラネコムギ	本年	78.3	7.7	672	28.9	775	299
	前年比	99%	101%	122%	84%	92%	71%
	平年比	99%	96%	104%	77%	95%	52%

※1 平年差・比は、過去5か年（令和元年～5年産）の平均値との比較、篩目2.0mmで調整

※2 基肥は緩効性肥料（N:P:K=12:9:4.2kg/10a）、4月26日に尿素を追肥（N=2.3kg/10a）

### 3 播種前の管理 ～排水対策～

- ・麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工し、ほ場の排水対策をしっかり行いましょう。
- ・湿害は土壌中の酸素の欠乏が引き金になり、根の呼吸作用の阻害と土壌の還元化による有害物質の発生によって根の活力低下につながります。

表5 麦類における生育時期別の湿害

生育時期	湿害の影響
播種直後	発芽不良、発芽遅延、不揃い
出芽後期～分けつ期	根の伸長抑制による浅根、分けつの減少、葉の黄化、生育遅延
節間伸長期～出穂	根の機能障害や弱小分けつの枯死、幼穂生育阻害による穂数の減少、穂の縮小化
出穂期以降	充実不良のため千粒重が軽くなり、収量・品質が低下、稈の伸長抑制

#### (1) 明きよの施工

- ・ほ場の周辺とほ場内 5～10m間隔に 1 本の割合で、明きよを掘り、ほ場外に排水できるようにしましょう。その時に、明きよは排水溝に必ずつなげましょう。

#### (2) 補助暗きよ・心土破碎の施工

- ・補助暗きよ（弾丸暗きよ、穿孔暗きよ等）は額縁明きよと本暗きよにつないで排水路を作りましょう。
- ・心土破碎は下層部に形成される耕盤層に亀裂を入れることで、ほ場の透・排水性を向上させる効果があります。サブソイラ等を用いて、地下水位の上昇を防ぎましょう。



写真1 明きよと排水溝をつなぐ



写真2 心土破碎後のほ場

#### ◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月1日～11月30日）◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう！農業機械の転落・防止対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

